

Ouhokai - Kaihou

桜圃会 会報

Vol.67
平成31年3月1日発行

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会
〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095
メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
印刷：(株)マルニ



桜圃会創立75周年記念もちまき



華月祭にて



桜圃会賞として自転車をプレゼント

はじまりの始まり！

山口県立大学学長 加登田 恵子



平成最後の年、そして新たな元号を迎える年となりました。これからの若者は、我々が明治時代について語るように「昭和時代」を語るようになるのでしょうか。

本学も、知の拠点として地方創生へ向けて積極的にその存在価値を発揮し、山口県民の皆様から「無くてはならない県大」と言われるよう、入試・組織・教育改革に取り組み始めました。まず今後養成をめざす人材像を、本学の四つの教育理念を踏まえてライフ・イノベーション・リーダー(LIL)と名付けました。LILとはライフ(人々の命、生活、人生)の質をより豊かに高める知識と技術と感性を身に付けた人材です。

昨年の十一月末に、中央教育審議会が「二〇四〇年に向けた高等教育のグランドデザイン」という答申をだしました。文科科学省は、戦後我が国の高等教育史上で最大の改革であると評しています。

単なる資格免許を有するだけでなく、例えば外国人に対応できる看護師、季節の郷土食を患者に提供できる管理栄養士、障害者の創造力を引き出せるソーシャルワーカー、地域の情報を海外へも発信できる公務員：等々、プラスアルファの強みを備えた人材をイメージしています。

答申では、学修者本位の教育への転換、社会人や留学生の受け入れの拡大、地域の各教育機関の特色を活かした連携や統合等が基本方針として打ち出されました。中でも大学関係者の関心を集めているのは、国公私立の枠組みを超えた「連携推進制度」の導入です。定員割れを起こしている私立が四割を占める中、統合も視野に入れた、まさに大学サバイバル時代に突入したといえましょう。

地域の人々を元気にする質の高い人材の育成こそ、本学の歴史が培ってきた強みであると考えます。